

伊豆沼・内沼上流域の池干しによる駆除活動

ナマズのがっこう事務局長 三塚 牧 夫

1. はじめに

伊豆沼・内沼は、宮城県北部仙北平野の水田地帯の中央に位置し、ハクチョウやマガン等の飛来越冬地として極めて重要な地域で、国の天然記念物、国指定伊豆沼鳥獣保護区、同特別保護区その他ラムサール条約の登録湿地（1895年）に指定されています。

また、迫川支流の荒川の中流域に位置する沼で、治水と利水の役割を果たしています。

伊豆沼へは、荒川、照越川が流入し、内沼へは八沢川、太田川が流入し、荒川となり、登米市迫町佐沼地点で迫川に合流しています。



伊豆沼・内沼では、1996年以降、オオクチバスが急増し小型魚類を補食した結果、ゼニタナゴ等小型魚類の個体数が激減しました。また、上流域のため池でもオオクチバスが確認され、同様な状況になっていました。

「ナマズのがっこう」は、伊豆沼・内沼周辺水田の生態系の復元ため、2003年7月に結成し、2004年からため池の池干しによるオオクチバス駆除を始めました。

2. 2010年までの活動結果

田んぼの学校、農村景観・自然環境保全再生パイロット事業、地球環境基金の助成金により、たも網やエンジンポンプ等の駆除道具を購入し、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団、シナイモツゴ郷の会より指導を受け、地域住民と連携して取り組んでいます。

大規模ため池170ヶ所のうち34ヶ所に生息しており、14ヶ所を駆除しました。隣接の小規模ため池（ヶ所数調査中）も同時に9ヶ所駆除し合計23ヶ所を駆除しました。

表 - 1 伊豆沼・内沼集水域のため池とオオクチバスの生息ため池，駆除ため池数

河川名	荒川	照越川	八沢川	太田川	伊豆沼直接	計
大規模ため池	94	30	14	15	17	170
小規模ため池	—	—	—	—	—	—
計	94	30	14	15	17	170
大規模ため池バス生息ため池	14	8	4	6	2	34
小規模ため池バス生息ため池	—	1	3	1	4	9
計	14	9	7	7	6	43
駆除済 大規模ため池(H21まで)	1	1	3	5	1	11
駆除済 大規模ため池(H22)	1	2	—	再度(2)	—	3
小計	2	3	3	5	1	14
駆除済 小規模ため池(H21まで)	—	—	3	—	3	6
駆除済 小規模ため池(H22)	—	1	—	1	1	3
小計	—	1	3	1	4	9
計	2	4	6	1	5	23